

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 兵庫県 猪名川町

自治体名：兵庫県猪名川町

担当課名：学校教育課

電話番号：072-766-6006

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	90.33 km <sup>2</sup>
人口	28,664 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	863 人
部活動数	16 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	猪名川町立中学校の部活動の地域連携及び地域クラブ活動移行検討会議
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	協議中

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、猪名川町では猪名川町スポーツ協会と猪名川町スポーツ少年団を中心に、中学生の地域でのスポーツ・文化活動の充実・創設を行っている。これまでの学校部活動になかった競技・種目に生徒たちが参加できたり、これまで続けてきた競技・種目に引き続き取り組むことができるようになる。これらの環境整備は、生徒たちの「技術力向上」を求める気持ちと、「スポーツを楽しみたい」という気持ちの両方を満たしていけると考えている。また、猪名川町全体で生徒の活動をサポートすることで学校によって実施される種目の違いが解消され、より多様な選択をすることができるようになる。

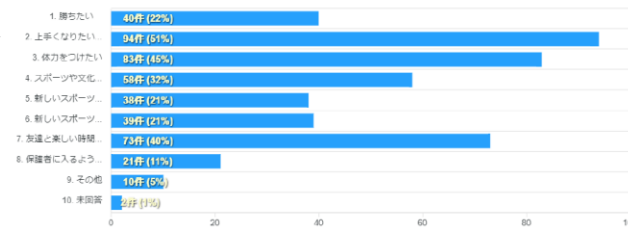
しかし、種目が多様になることは反対に、少子化は年々進行している。令和元年度には1,039人いた中学生は令和10年度に691人まで減少する。新たな競技・種目が増えてしまったことでチームが組めなかったり、十分な練習が実施できないことが懸念される。また、指導者の高齢化も進んでいる。町内の65歳以上の人口は30%を超えている。そのため、中学生にとって新たな活動場所となった団体であっても、後継者不足のため、これから先も持続的に運営することが難しい現状である。

### 1 少子化の進行(活動する子どもの減少)

令和元年度	令和5年度	令和10年度
中学校1, 039人	中学校 891人	中学校 691人
小学校1, 848人	小学校 1, 507人	小学校 954人

出典：令和5年度猪名川町教育要覧

部活動に所属した理由は何ですか。(あてはまるものすべてにチェック)

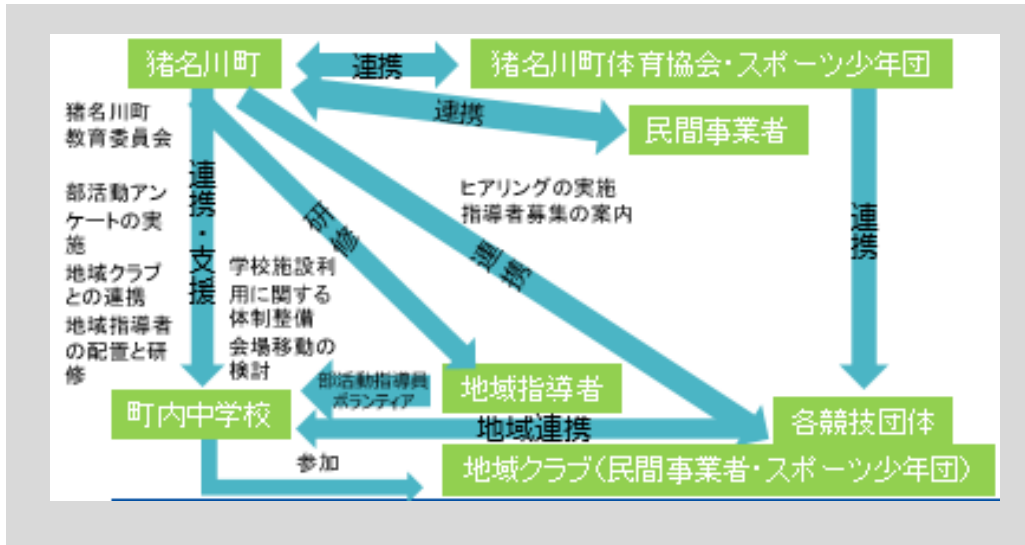


出典：猪名川町教育委員会独自調査

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

- ・地域クラブとの連携、地域指導者の発掘
- ・生徒へのヒアリングの実施、放課後の会場移動の検討
- ・小・中学生と保護者に向けての説明会の実施

##### ◎首長部局

- ・猪名川町体育協会・スポーツ少年団と地域連携に向けた協議の実施
- ・猪名川町体育協会・スポーツ少年団と地域連携に向けた説明会の実施
- ・学校施設の使用に関する手続きの整備

### 年間の事業スケジュール

令和6年4月	男子バスケットボールの地域クラブ活動を開始
令和6年6月	地域クラブ活動の視察 アスリート人材の活用
令和6年7月	各地域クラブ団体との協議
令和6年8月	町立施設の利用に関する検討会議
令和6年9月	スクールバス活用検討会開催 夜間照明設備の設置に関する検討会の開催 体育・スポーツ系大学生の活用開始
令和6年11月	部活動における学校施設の利用状況と備品管理の状況調査 夜間照明使用団体の視察
令和6年12月	男女ソフトテニスの地域クラブ活動を開始
令和7年1月	猪名川町立中学校の部活動の地域連携及び地域クラブ活動移行検討会議の実施 保護者説明会の開催

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	15クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3クラブ（0部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		12クラブ
全体の指導者数	21人	全体の運営スタッフ数	25人

#### ②各クラブに関すること（ケース別クラブ数のAに関する事項を抜粋）

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ひよどりジュニアバドミントンクラブ	猪名川町スポーツ協会	バドミントン	週4回	平日 夜 休日 夕	小学生～高校生	通年	猪名川町立小中学校体育館	1人	4人	月会費 2,500円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
FALCONS U15	民間団体	男子バスケットボール（新）	週4回	平日 夜 休日 午前	中学生	通年	猪名川町立中学校体育館	1人	1人	月会費 4,800円	中体連：部活動、地域クラブ その他：地域クラブ
いながわWings	民間団体	男女ソフトテニス（新）	週4回	平日 夜	中学生	通年	猪名川町スポーツセンター	6人	1人	月会費 1,600円	中体連：部活動 その他：部活動

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

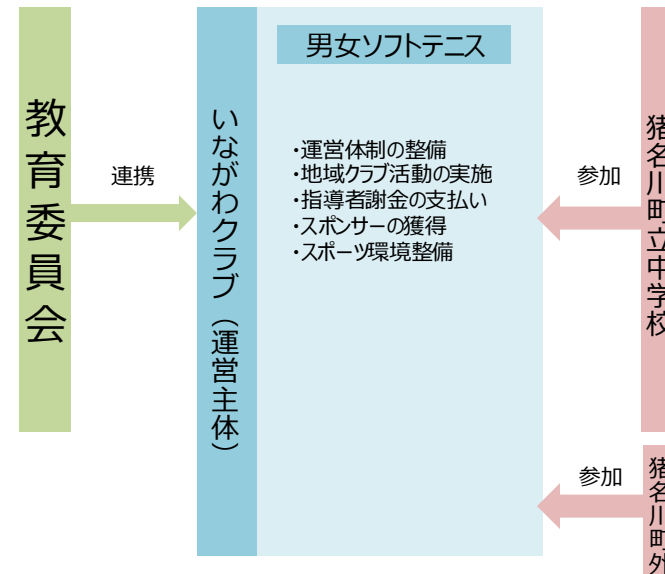
- 随時、体験会を実施
- 猪名川町教育委員会発行広報紙を活用して、活用内容を普及

## 主な取組例

### ●一般社団法人いながわクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	男女ソフトテニス
運営団体名	一般社団法人いながわクラブ
期間と日数	男女ソフトテニス 12月4日～3月26日 週1回程度
指導者の主な属性	教員の兼職兼業、地域ボランティア
活動場所	猪名川町立スポーツセンター
主な移動手段	保護者送迎、スクールバス
1人あたりの参加会費等(年額)	男女ソフトテニス：1,600円
1人あたりの保険料	保険料 生徒1人あたり：170円/月 指導者1人あたり：210円/月

### ●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者
  - 役割：活動管理者として生徒、保護者、地域等関係者との連携を行う
- 主任指導者 5名
  - 役割：生徒への技術指導を行う
- 運営補助者 1名
  - 役割：主任指導者と共に生徒への指導を行う

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

## 取組内容

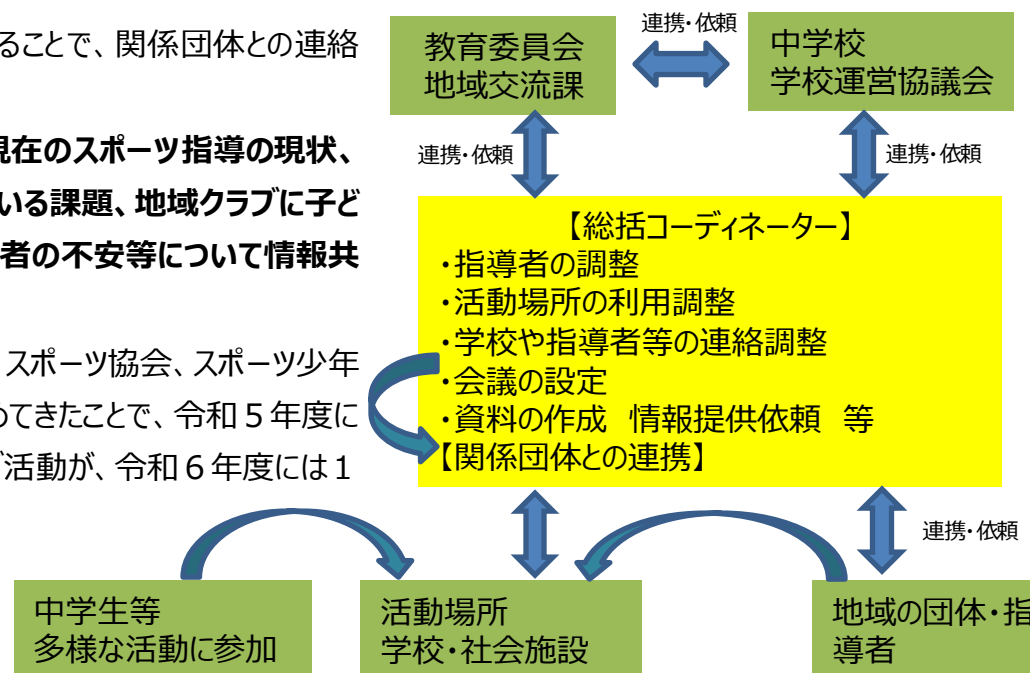
### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

#### 取組事項

- 広域的な活動を行う統括コーディネーターを1名配置し、関係団体との連絡調整・指導助言等を行う。
- 猪名川町立中学校の部活動の地域連携及び地域クラブ活動移行検討会議を開催し、学識経験者やスポーツ協会、中学校体育連盟代表校長、保護者会それぞれの立場から意見を述べあえる組織体制を構築する。

#### 取組の成果

- 統括コーディネーターを配置することで、関係団体との連絡調整を円滑に行うことができた。
- 検討会議を開催することで、現在のスポーツ指導の現状、地域スポーツ関係団体が抱えている課題、地域クラブに子どもを参加させるにあたっての保護者の不安等について情報共有することができた。
- 統括コーディネーターを中心に、スポーツ協会、スポーツ少年団、民間団体等との連携をすすめてきたことで、令和5年度には実施できていなかった地域クラブ活動が、令和6年度には15種目で実施することができた。



#### コーディネーターの具体的な動きの実績

##### 【総括コーディネーター】

- ・シーズンごとに地域クラブを視察。参加している生徒にヒアリングを実施。
- ・行政と関係団体の連絡調整を実施。
- ・地域クラブに広報資料の作成を依頼。

#### 今後の課題と対応方針

- ・活動している地域クラブ数の増加に伴い、施設利用や環境整備等の調整を図る必要がある。
- ・地域住民により周知するために、広報活動の在り方を検討する。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

##### 指導者研修の内容

【熱中症・スポーツ傷害等に関する研修会】

- ・対象：生徒、教員、保護者、地域クラブ指導者
- ・目的：熱中症やスポーツ傷害、感染症予防等に関する理解を深める
- 工夫した点：各競技ごとに巡回し、ドクターによるデモンストレーションを実施した。

【運動部活動安全講習会】

- ・対象：教員、部活動指導員、地域クラブ指導者
- ・目的：打撲・捻挫・肉離れ：スポーツ現場でよくある外傷の病態と対処法を学ぶ
- 工夫した点：参加自ら身体を動かす参加型の講習会を実施した。

##### 指導者研修の参加実績

- ・開催日：7月11日、1月29日
- ・開催回数：2回
- ・参加人数：67人

##### 受講者の声

- ・「専門的な話もありましたが、分かりやすく伝えてくださり、現場でも活かせる内容だったと思います。」
- ・「実際に身体を動かしながらの講習だったので、より理解が深まりました。」
- ・「今日教えてもらったトレーニングを、家に帰ってもしてみようと思います。」
- ・「今日聞いたことを子どもたちにも伝えていきたい。」
- ・「専門家の方から話が聞いたのはよかったが、今の子どもたちにおきやすいスポーツ傷害についての話をもう少し聞きたかった。」
- ・「このような機会だけでなく、日ごろから気軽に相談できたり、対応してもらえたりする環境が整ってほしいなと感じた。」
- ・「今日の話聞いて、ストレッチをしようと思いました。」

##### 今後の課題と対応方針

- 研修の開催日が平日だったため、地域クラブの指導者の参加率が低かった。
- スポーツの指導に関わる方々の悩みや困り感をヒアリングした上で、研修のテーマを設定する必要がある。
- 地域クラブの指導者やサポートスタッフの参加率を高めるために、広報を工夫する。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

**ウ：関係団体・分野との連携強化**

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

- 学校と連携して進めていくため、小中学校校長会や教員対象の説明会等において、本町の取組及び今後の見通し等の説明を実施。
- 指導者や学生の派遣、指導者の学び直し等について**宝塚医療大学と連携**。
- スクールバスを活用**し、生徒の活動場所までの移動手段を確保した。

##### 取組の成果

- 中学校校長会や各小・中学校を訪問し、本町の取組及び今後の見通しを説明することで、教員の地域展開に対する主体性が生まれてきた。
- 保護者対象の説明会を実施**することで、地域展開を進めていく中での課題に気づくことができた。
- 体育・スポーツ系の大学と連携することで、現在のスポーツ指導の在り方について学ぶことができた。また、**学生を指導者として派遣**してもらうことで、より大人数で指導にあたることができた。
- スクールバスで登下校している生徒4名が学校外で実施されている地域クラブ活動に**スクールバスを活用**することで参加することができた。

スクールバス利用生徒  
54人

地域連携・地域クラブ  
参加生徒  
41人

学校外地域クラブ  
参加生徒  
4人

##### バス等の運行実績

- ・日数 95日
- ・利用者数 41人
- ・運行経路  
中学校～町立スポーツセンター～自宅付近のバス停  
中学校～自宅付近のバス停

##### バス等の運航経費・収入

- ・委託費  
地域連携・地域展開関連経費  
3,782,639円
- ・利用料  
生徒の負担なし

##### 今後の課題と対応方針

- スポーツ栄養学やスポーツ科学、アスレチックトレーナーの活用等、大学連携の在り方をより一層充実させる。
- スクールバス停留所を見直し、活用範囲を拡大する。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

##### 取組の成果

地域クラブ活動への転換に向けて、部活動指導員の活用や地域ボランティア人材の活用など地域連携に取り組んでいる。部活動運営にかかわる人員が増えたことで、部活動顧問として配置されている主幹教諭・教諭の超過勤務時間数が減少している。令和4年度には月平均53時間だった超過勤務時間数が、令和5年度には部活動指導員に加えて地域ボランティアスタッフも運営にかかわるようになったことから、超過勤務時間数が47時間に減少している。令和6年度からは地域連携がさらにすすみ、複数の種目で地域スタッフが生徒の指導にあたるようになったことから、超過勤務時間数は44時間にまで減少している。今後は地域連携を加速させ、地域クラブ活動への転換を図ることで、これまで以上に教員の超過勤務時間数が減少すると考えている。

		中学校		
		R4	R5	R6
教諭・主幹教諭	4～12月平均	53:47	47:02	44:31
①月80時間超えがある人		29	20	16
②①以外で45～80時間がある人		17	30	28
③すべての月で45時間未満の人		5	8	13
		/51人	/58人	/57人

出典：猪名川町教育委員会独自調査

##### 今後の課題と対応方針

- 教員の兼職兼業にかかる指導者報酬と受益者負担のバランスについて検討する。
- 困窮世帯が地域クラブ活動に参加する際の補助金支給の在り方について検討する。
- 低廉な受益者負担にするためにも、寄付や企業スポンサー等の募集について検討する。
- 持続可能な団体運営に向けて、必要経費を明確にする。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

総括コーディネーターを中心に、地域の団体と行政・学校が連携する体制を整えてきた。1つ1つの団体からヒアリングを実施し、実際の活動状況や新たに中学生が参加できるのかどうか等、各地域スポーツ環境の現状把握に努めた。学校部活動を地域に転換していくにあたり、地域の実情を把握するのは不可欠であった。

また、青少年スポーツ活動の意義について、改めて地域の方々と議論する機会を得ることができた。議論する中で、地域クラブ活動へ転換することはこれまでの部活動を地域で展開するだけにとどまらず、地域の町づくりにもかかわる大きな取り組みであるということ、これまでのスポーツ指導のあり方を転換するチャンスであることなどが話題に挙がった。教育委員会だけでなく、様々な行政部局を巻き込んで取り組みを進めていく必要性を感じた。

#### ●成果の評価

- 地域団体と学校部活動をつなぐ役割を担う総括コーディネーターを配置したことで、円滑に地域連携を進めることができた。
- 猪名川町立中学校の部活動の地域連携及び地域クラブ活動移行検討会議や保護者対象の説明会、教員対象の説明会を開催したことで、それぞれの立場の方々と意見交換をすることができ、地域展開に関する認知度を高めることができた。
- 体育・スポーツ系大学の学生やアスリート人材を活用したことで、これまで以上に専門的な指導を受けることができた。
- 町立体育館やスポーツセンターを活用することで、冷暖房設備やナイトー設備が整った環境の中で、子どもたちが練習に取り組めた。
- スクールバスの活用により、生徒の移動手段のあり方の1つを示すことができた。

#### ●今後に向けて

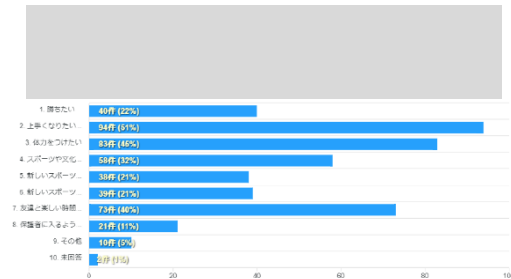
- 学校部活動で実施されているすべてのスポーツ種目を、令和8年4月から地域展開する。
- 地域展開するにあたり、青少年のスポーツ環境の在り方について見直し、子どもの意見を踏まえながら、スポーツ指導及び団体運営を行う。
- 中学校部活動の地域展開の枠にとどまらず、子どもから大人まで多世代が交流できる場となるような地域展開のあり方を検討する。
- 地域・社会総がかりで地域展開に取り組めるよう広報をあり方を工夫する。

## 2.実証内容と成果②

### アンケート結果・参加者の声

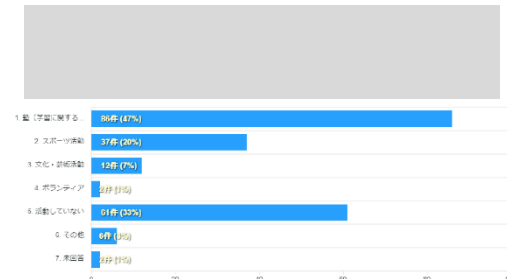
#### ●アンケート結果

Q.あなたが部活動に所属した理由を選んでください。(複数回答可)



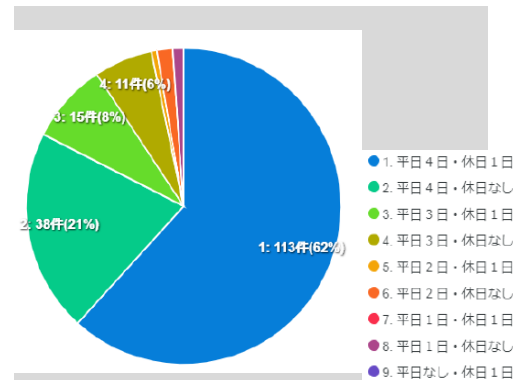
出典：猪名川町教育委員会独自調査

Q.学校外で取り組んでいる活動はありますか。(複数回答可)



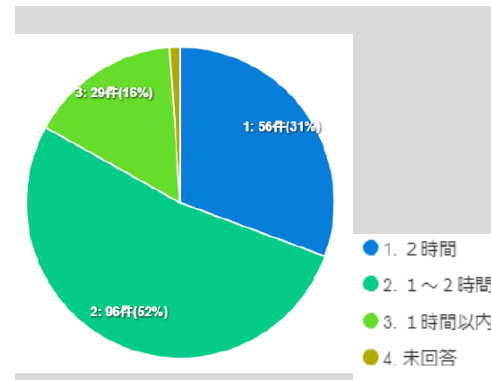
出典：猪名川町教育委員会独自調査

Q.平日の活動日数は何日がいいですか。



出典：猪名川町教育委員会独自調査

Q.平日の活動時間は何時間がいいですか。



出典：猪名川町教育委員会独自調査

#### ●参加者の声

##### 中学2年生

地域の体育館は広くて、冷房もついているから活動がしやすいです。

##### 中学1年生

自分が取り組んでいる種目は中学校の部活動になかったため、参加しているチームで大会に出られるのがうれしい。

##### 保護者

学校部活動だと、子どもが練習しているところを見に行くのが難しい。地域クラブであれば子どもを送迎しがてら、練習しているところが見られたり、サポートをしながら一緒に参加できたりするのがいい。

##### 指導者

これまで小学校段階で一生涯懸命に協議に打ち込んでいた子が、部活動に種目がないことをきっかけに辞めていた。これからは地域クラブが中体連の大会にも出場できるので、競技を続ける子が増えた。

## 2.実証内容と成果③

### 参考資料（活動写真）



【合同練習会の実施】



【トレーナーの活用】



【スクールバスの活用】



【地域指導者との連携】

## 2.実証内容と成果④

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

協議会設置、  
検討開始、  
関係団体に説明

学校、生徒、保  
護者への説明

令和6年

学校部活動と  
地域クラブの  
調整

地域連携、地域  
クラブ活動の開  
始

令和7年

地域クラブ活動  
の拡大

令和8年

学校部活動を地  
域クラブへ全面  
転換

●ステークホルダー

猪名川町スポーツ協会、  
猪名川町スポーツ少年団、学校

●経過

地域展開に関する概要を説明  
教職員対象に地域クラブ活動に関  
するアンケート調査を実施

●実施にあたって生じた課題

指導者の確保、団体数の確保、  
地域展開の中核を担う組織体制の  
構築

●実施内容、工夫した点等

全体会を実施したのち、各種スポー  
ツ協会と個別に打合せを実施  
各学校部活動顧問からのヒアリング  
を実施

●ステークホルダー

猪名川町スポーツ協会、  
猪名川町スポーツ少年団、学校、  
民間団体、地域ランティア人材、教員

●経過

部活動における地域指導者の指導  
学校部活動外の地域クラブ活動の  
実施

●実施にあたって生じた課題

生徒の移動手段の確保、部活動と  
地域クラブの連絡調整、活動場所  
の安定的な確保

●実施内容、工夫した点等

各種目ごとに学校部活動顧問と地域  
クラブ指導者の検討会を設置  
広報誌によるボランティア人材の募集

●ステークホルダー

猪名川町スポーツ協会、  
猪名川町スポーツ少年団、学校、  
民間団体、地域ランティア人材、教員

●経過

平日休日問わずに地域クラブ活動の  
実施

地域連携の拡大

●実施にあたって生じた課題

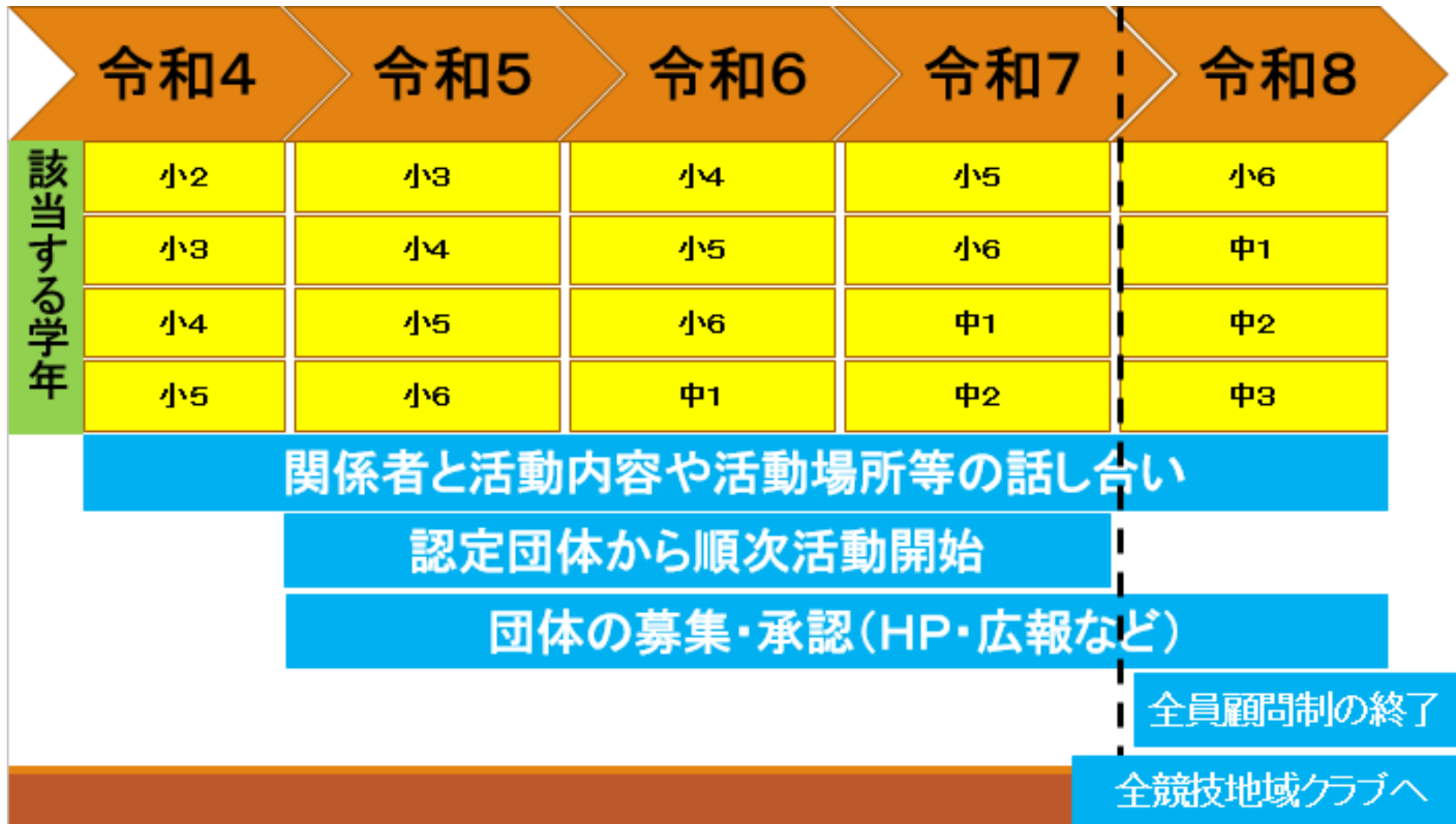
指導者間の連絡調整  
在籍校以外で活動する生徒の移動  
手段や連絡方法

●実施内容、工夫した点等

アプリを導入することで連絡方法を確  
立  
施設利用に関する検討会を設置

### 3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 兵庫県 多可町

自治体名 : 兵庫県多可町

担当課名 : 教育委員会学校教育課

電話番号 : 0795-32-2395

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	185.19 km <sup>2</sup>
人口	18,814 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	456 人
部活動数	23 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

生徒の減少が激しく、令和8年4月に3中学校が統合することが決まっており、町内3中学校では種目によってすでに単独で運営できない状況である。生徒の減少により教員の数も減少し、顧問の確保も困難で、顧問を拒否する教員も出始めている。部活動の数も減少し、生徒たちは自分の活動したい種目を選択できない状況にある。部活動という制度を維持することは、すでに困難な状況にきている。

そこで、多可町では令和5年6月に「中学生のスポーツ・文化活動の地域展開検討会議」を立ち上げ、協議をスタートし現在も地域クラブの在り方など協議を行っている。

現状の決定事項として、「令和8年の総合体育大会終了後には、平日も含めたすべての学校部活動を廃止し、地域で中学生のスポーツ・文化活動を展開する」ということを、広報紙面等で保護者をはじめ住民に周知している。

地域で、子どもたちのスポーツ・文化活動を支えていくためには、当然、地域の受入体制を整える必要がある。

令和5年度に行った児童生徒、保護者や地域のクラブチームを対象としてアンケートでは、関

わってくれる地域クラブがあるのか、指導者が確保できるのか、送迎や利用者負担など様々な心配事が見られた。

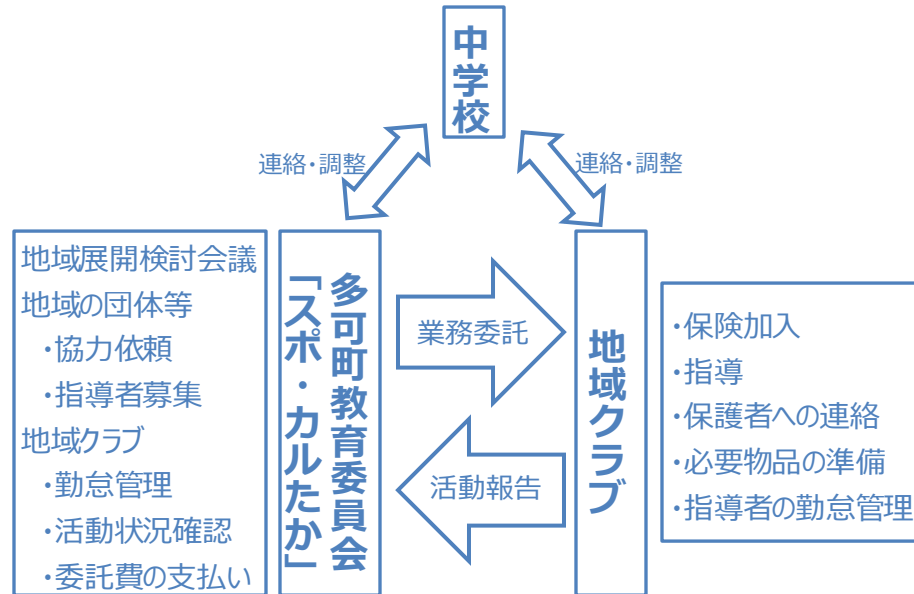
しかし、すでに社会教育としてのスポーツ・文化活動が、小学生や大人の世代では、学校部活動の種類とは比べものにならないほどの種類で展開されており、これまでの部活動との違いに焦点を当てるのではなく、多可町ではどんなことができるかという建設的な視点で、この改革を推進している。

この改革によって、子どもたちがよりスポーツ・文化活動に親しみやすく、それぞれの可能性を開花させる機会を幅広く、自由に選択できる環境整備を目指す。

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

学校教育課・・・部活動改革の主幹、中学生のスポーツ・文化活動の地域展開検討会議の主管課、学校との調整、地域クラブとの調整

##### ◎首長部局

生涯学習課・・・社会教育団体との調整、全世代にわたるスポーツ・文化活動を主幹  
財政課・・・予算措置

### 年間の事業スケジュール

令和6年5月	卓球、バスケットボールクラブ実施
令和6年6月	第7回検討会議開催
令和6年8月	第8回検討会議開催
令和6年10月	第9回検討会議開催
令和6年12月	新入生保護者説明会開催
令和7年1月	水泳体験会開催
令和7年1月	第10回検討会議開催
令和7年3月	第11回検討会議開催
令和6年6月 ～令和7年3月	種目ごとの話し合い (8クラブ 計16回)

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0クラブ（0部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2クラブ
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	5人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
吉田卓球場	民間事業者	卓球（新）	週3回	火・木 17:00～ 19:00 土 9:00～ 12:00	1年生5人	令和6年 5月～令 和7年1 月	吉田卓球場	2人	2人	月会費 3,000円	中体連：地 域クラブ その他：地域 クラブ
北播磨ジュニアバスケットボールクラブ	地域のクラブチーム	バスケットボール（新）	週4回	月・水 16:30～ 18:00 金・土 18:30～ 20:30	2年生2人 1年生1人	令和6年 5月～令 和7年1 月	中学校体育館	1人	1人 (指導者兼務)	月会費 1,500円～ 3,000円	中体連：なし その他：地域 クラブ

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 水泳体験会 令和7年1月実施 参加者1年生1人

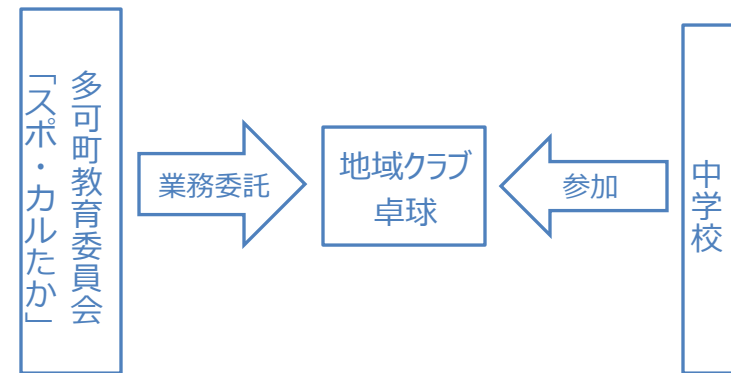
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ● 吉田卓球場 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	卓球
運営団体名	吉田卓球場
期間と日数	卓球：5月1日～1月30日 月12回程度
指導者の主な属性	コーチングアシスト
活動場所	吉田卓球場
主な移動手段	自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	卓球：36,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年 65歳以上1,200円/年

#### ● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



#### ● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 責任者  
役割：活動における管理者として、学校、保護者、教育委員会と連携を行う
- 主任指導者 1名  
役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う
- 運営補助者  
役割：活動において、主任指導者の補助として、指導補助を行う

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

- 中学生のスポーツ・文化活動の地域展開をコーディネートする「スポ・カルたか」を設立し、中学生の地域クラブへの参加や人材確保のための広報活動など地域クラブの運営をサポートを行う。
- 種目ごとに地域クラブ設立に向けての話し合いを進める。
- 実施主体と中学校の連絡調整等を行う。

##### 取組の成果

- 中学生の地域クラブへの参加や指導者の人材確保のための広報活動を実施した。
- ソフトテニスやサッカーなどの種目ごとに部活動顧問や地域の指導者等と延べ16回話し合いを行った。
- 実施主体と中学校の連絡調整等を行うことができた。

NEWS vol. 8

### 中学生のスポーツ・文化活動の地域展開

スポ・カルたか事務局(学校教育課内) ☎(32)2395

#### 水泳 体験会を実施!

令和7年4月の地域クラブ活動スタートにむけて、水泳のモデル事業を実施しました。  
【スポ・カルたか】事務局では、中学生の皆さんが様々な活動にチャレンジする機会をつくるため、スポーツ・文化活動の地域展開に向けた検証を実施しています。既存の部活動についても地域展開に向けた準備を進めています。

#### 指導者を募集しています!

「スポ・カルたか」では、引き続き指導者を募集しています。  
野球・ソフトボール・バレーボール・陸上競技などのスポーツや、将棋・囲碁・吹奏楽などの文化活動を子どもたちに教えてみませんか？  
指導補助でも結構ですので、「子どもたちのために何かしてあげたい」という方はご連絡をお待ちしています!

指導者申込フォーム

スポ・カルたか公式Instagram

スポ・カルたか事務局(学校教育課内)  
☎(32)2395  
✉spocul-taka@town.taka.lg.jp

-23-たいさかtake 2025.2

出典:多可町広報紙2025.2月号

##### コーディネーターの具体的な動きの実績

- 部活動顧問や地域の指導者との話し合いの場を設け、地域クラブ設立に向けた協議を行った。
- 中学生のスポーツ・文化活動地域展開検討会議の調整等を実施し、関係団体との連携に努めた。
- 地域クラブ、参加者、学校への連絡調整を実施。

##### 今後の課題と対応方針

- 中学生のスポーツ・文化活動の地域をコーディネートする「スポ・カルたか」を設立し、この改革の推進体制を明確にするとともに、将来の全世代を対象とした、多可町のスポーツ・文化活動の地域展開の推進体制の基礎を作る。
- 町独自の認定制度を設け、地域スポーツクラブ活動を認定する。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

##### 取組事項

- 種目ごとの話し合いを重ね、受け皿の確保に努める。
- 指導者に対して、資質向上のための研修の受講や資格取得を促進する。
- 指導者研修では熱中症対策をテーマに専門家による研修を実施

種目	指導者人数	資格有無
・卓球	・2人	・卓球コーチ1 ・コーチングアシスト
・バスケットボール	・1人	・C級公認コーチ
・水泳	・1人	・ -
・サッカー	・2人	・C級公認コーチ ・4級審判員
・ソフトテニス	・3人	・ -

##### 取組の成果

- 今年度実施した卓球とバスケットボールの地域クラブでは、指導者を3人確保した。
- 水泳、サッカー、ソフトテニスに係る指導者を6人確保した。次年度以降の地域クラブ設立に向けて協議を進めていく。

##### 今後の課題と対応方針

- 技術的な指導だけが求められているわけではなく、青少年の健全育成という部分の意識は、関係者の必須として定着を図る必要がある。
- 実証事業の指導者への報酬を考えているが、他世代の指導者との整合性など考え方の整理が必要と考える。
- 指導者間の情報共有や運営のあり方を検討するため、協議会の設立の検討が必要と考える。
- 学校、指導者、保護者、教育委員会が連携を図るためのアプリ導入の検討が必要と考える。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

**ウ：関係団体・分野との連携強化**

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

- 種目ごとの話し合いを重ね、受け皿の確保に努める。
- 生涯スポーツ担当課を検討委員会に加え、各世代を巻き込んだクラブ作りが出来るよう検討した。
- 民間クラブへの協力依頼を積極的に行い、受け皿のさらなる拡大を図った。
- 町外の地域クラブを訪問し生徒の受け入れが可能か調整を行った。

##### 取組の成果

- 体育協会、総合型地域スポーツクラブ、スポ少などの指導者や関係者との話し合いを重ね、2種目の地域クラブ設立に向けた具体的なスケジュール等について協議を行った。
- 将来的に地域クラブを町全体で支える仕組みづくりを検討するため生涯スポーツ担当課とより具体的な協議を実施した。
- 民間クラブへの受け入れ協力を依頼する際、地域展開として会費や活動日程など特別な枠組みを模索してもらうよう協議を進めることができた。
- 生徒に幅広くスポーツを楽しむ機会を設けるため、地域にない特色あるクラブにも参加できるよう協議を実施した。

##### 今後の課題と対応方針

- 総合型地域スポーツクラブは、小学校区で活動しており統一は難しいものの、人口減少に合わせて垣根を超えたクラブ運営に協力いただくよう協議を進める必要がある。
- スポーツ協会は、競技団体ベースの組織ではなく、地域展開を進める上で委託できる既存組織がない状態である。
- これまで無報酬で指導している団体に地域クラブとして活動依頼する際に感覚の相違が生まれる。
- 広域で生徒を受け入れる地域クラブが発足した場合の委託契約の範囲など明確な基準を自治体と双方で定める必要がある。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

- 中学生のスポーツ・文化活動を促進し、地域展開のコーディネートを担当する事務局「スポ・カルたか」をスタート。
- 中学生の「こんなスポーツがしたい」、「こんな活動に挑戦したい」という思いの実現を目指し、様々なスポーツ・文化活動の発掘、地域クラブの発足などに努める。
- 中学生や保護者に対しては、地域クラブへの参加を広く呼びかけ、それぞれの活動をサポートする。
- 地域クラブに対しては、参加者募集、人材確保のための広報活動、運営の助言を行った。
- 中学生がより多くのスポーツ・文化活動にふれ、様々な地域クラブを選択できるよう、地域クラブの設立に向け、指導者の募集、指導者候補の探求に取り組む。
- 種目、分野ごとに指導者や指導者候補と地域クラブの運営、設立に向けた話し合いを重ね、地域クラブの実施主体と中学校の連絡調整等を進める。
- 卓球、バスケットボールの2つの地域クラブが活動を開始する。

#### ●成果の評価

- 事務局となる「スポ・カルたか」を教育委員会内に設置し、地域クラブ指導者の発掘、既存部活動との調整が図れた。
- 町広報やSNSによる情報発信を広く行った。
- 卓球、バスケットボールの2つの地域クラブで活動がスタートできた。
- 活動開始時は町内の中学生8名（卓球5名、バスケットボール3名）がそれぞれの地域クラブに参加し、現行の部活動にはない新しい種目に挑戦することができた。
- 中学生のスポーツ・文化活動の地域展開検討会議を度重なり開催し、推進計画やガイドラインについて協議を行い、令和6年6月に推進計画を策定し、令和7年1月にガイドラインを公表した。
- 新規の水泳、既存のサッカー、ソフトテニスに関する指導者を6人確保でき、次年度以降の地域クラブの設立に向けて協議を進めていくことができた。

#### ●今後に向けて

- 順次、各地域クラブが地域展開をする中で、「スポ・カルたか」においては、公平で公正な関わりが求められる。
- 地域クラブのより良い活動と適切な運営をサポートするため、地域クラブに関する認定制度を定めることが喫緊の課題である。
- 今年度にスタートした2つの地域クラブとも部活動種目ではないため、令和8年の部活動廃止に向け、既存部活動の地域展開に向けた指導者の確保、運営方法の模索、スポーツ・文化活動の環境整備、保護者への周知啓発を進めることが必要で、その体制整備に取り組む。

## 広報資料等

**地域クラブの紹介**

# 部活動 だけじゃない!

自分のやりたい活動は  
自分で決める

地域クラブがスタートします。  
初めはモデル事業として活動し、  
徐々に本格的に移行していきます。

参加申し込みは  
QRコードから



*Check Out!!*

地域クラブは、部活動を選ぶように選ぶことができるようになりました。

**【部活動】**  
・令和8年の総合体育大会(6月頃)終了をもって部活動を廃止する予定です。  
・令和7年の新人戦からは、人数に関係なく合同チームで活動します。  
・部活動から地域クラブに変わる可能性もあります。

**【地域クラブ】**  
中体連に加盟していると、中学校公式大会に出場できます。

**【部活動と地域クラブ】**  
中体連主催の大会へは1種目からしか参加できません。基本的には部活動を優先してください。活動内容については、チームと相談してください。  
※要道もご確認ください。

**吉田卓球場**

○活動日 火・水・土曜日  
○時間 平日 17:00～19:00  
土曜 9:00～12:00  
○場 所 吉田卓球場(天田)  
○参加費 3,000円/月  
※当道の隣、参加費無料  
○代 表 吉田宣功  
※中体連加盟あり  
(中学校公式大会に出場できます。)

*Message*

エンジョイ勢からガ子勢まで！  
それぞれのレベルや体力におじたメニューでバスケットを楽しめることをめざしています。  
一緒にバスケットをやろう！！

**北播磨ジュニア  
バスケットボールクラブ**

○活動日 月・水・金・土曜日  
○時 間 月・水 16:30～18:30  
金・土 18:30～20:30  
○場 所 中町中学校体育館  
○参加費 1,500～3,000円/月  
※当道の隣、参加費無料  
○代 表 池田尚樹  
※中体連加盟なし

*Message*

卓球が得意な児童でクラブチームとしてスタートします。クラブチームといっても部活動と一緒にです。貸出ラケットもあるので、体育館シューズがあれば大丈夫。初心者、経験者関係なく卓球がしたい人、誰でも参加してください！

地域展開に合わせた学校部活動と地域クラブ活動への所属について  
(8月以降)  
中学校統合 部活動廃止

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中学2年生 (R22.4～R23.3)	【中学2年生】	【中学3年生】	
	学校部活動に所属している場合は優先 (地域クラブへの参加も可、学校部活動の活動時間外に地域クラブの活動へ参加する) ※ただし、学校部活動から地域クラブに変わる場合あり。		
中学1年生 (R23.4～R24.3)	【中学1年生】	【中学2年生】	【中学3年生】
	地域クラブ活動への参加可。〔ただし学校部活動に加入している場合は学校部活動を優先とし、活動時間外に地域クラブの活動に参加する〕 ※ただし、学校部活動から地域クラブに変わる場合あり		
小学6年生 (R24.4～R25.3)		【中学1年生】	【中学2年生】
		地域クラブ活動への参加可。〔ただし学校部活動に加入している場合は学校部活動を優先とし、活動時間外に地域クラブの活動に参加する〕 ※ただし学校部活動から地域クラブに変わる場合あり	
小学5年生 (R25.4～R26.3)			【中学1年生】
			地域クラブで活動

※ 中学校体育連盟(中体連)の取り決めにより、学校部活動と地域クラブ活動の両方に所属している場合、同時に中体連の大会に出場することはできません。

※ 学校部活動は、中学校統合に向けて令和7年度の新人戦から合同チームで活動する方針です。

国は、学校部活動を「学校の業務が必ずしも教師が担う必要のない業務」と位置づけており、多可町においても学校部活動を地域クラブ活動へと展開していきます。  
地域クラブ活動との併存期間中は選択制としますが、順次、学校部活動を廃止します。  
令和8年の団体終了後、すべての種目が地域クラブ活動に移行する予定です。



【地域クラブ参加者募集チラシ 表】

【地域クラブ参加者募集チラシ 裏】

問合せ 多可町教育委員会 学校教育課 ☎(32)2395

10

## 広報資料等

**NEWS vol.4** 中学生のスポーツ・文化活動の地域展開

町政PICKUP

学校教育課 ☎(32)2395

**アンケート調査の実施結果**

■調査時期 令和6年2月  
■調査対象 町内の小学3～6年生の児童、  
町内の中学1～3年生の生徒  
町内の小学3年生～中学3年生  
の保護者、地域クラブ

スポーツ・文化活動の地域展開についてアンケートを実施しました。  
アンケート結果をもとに、子どもたちの思いを尊重しながら地域展開を進めていきます。  
アンケートの詳細はホームページをご覧ください。

**児童 回答数285**      **生徒 回答数359**      **地域クラブ 回答数28**

Q. 現在、地域でスポーツや習い事をしていますか？

いいね 26%      はい 74%

Q. 現在、部活動や部活動以外のスポーツ文化活動をしていますか？

部活動と部活動以外を掛け持ち 10%      部活動以外のスポーツ文化活動 7%      活動していない 16%      部活動 67%      中心的な立場で関わりたい 14%

Q. 中学生になったらどんな活動をしたいですか？

テニス 46%      スケート 38%      美術 32%      ダンス 28%      料理 24%      陸上 20%      サッカー・バレーボール 16%      バスケットボール 12%      吹奏楽 8%      卓球 4%

Q. 将来の地域展開に望むこと ※一部抜粋

- ・いじめのない楽しめるクラブ
- ・仲間との協力や先輩後輩との人間関係を大切にしてほしい
- ・子どもの意思を大切にしてほしい
- ・だめなことはだめ、いいことはいい、と言してほしい
- ・指導者が見つかりにくいかもしれませんが、なんとかがんばってほしい
- ・本気で取りかかって欲しい
- ・挨拶や礼儀などもしっかり指導してほしい
- ・選択肢の多様化

Q. 将来の地域展開への思い ※一部抜粋

- ・ボランティアとして関わるには限界がある
- ・運営が大変そう
- ・子どもたちにとって一番いい方法を考えるべき
- ・活動が増えるのは負担が大きい
- ・興味のある子どもたちが熱心に取り組んでくれるとうれしい
- ・生徒のモチベーションが心配

【広報紙2024.5月号】

**NEWS vol.5** 中学生のスポーツ・文化活動の地域展開

学校教育課 ☎(32)2395

**【スポ・カルたか】運営スタート！**

中学生のスポーツ・文化活動を支える事務局として、「スポ・カルたか」の運営がスタートしました。  
中学生の「こんなスポーツがしたい、こんな活動に挑戦したい」という思いを実現するため、さまざまなスポーツ・文化活動の企画を行います。  
また、地域クラブの活動支援、組織づくりのサポートなど、スムーズな地域展開を進めています。

**5月から地域クラブが活動開始**

5月から、2つの地域クラブが活動を開始し、町内の中学生9人が所属して活動しています。  
・[吉田卓球場] (6歳～10歳) (中級天田)  
・[北徳島ジュニアバスケットボールクラブ] (活動場所：中町中学校体育館)  
地域の指導者のもと、子どもたちは真剣に取り組んでいます。

北徳島ジュニアバスケットボールクラブでの様子  
吉田卓球場での様子

【広報紙2024.7月号】

**中学生のスポーツ・文化活動**  
**地域クラブの指導者を大募集**

多可町では、令和8年度の総合体育大会後、中学校の部活動を廃止する予定です。  
そのため、中学生が地域でスポーツや文化活動を行う環境づくりに向け、受け入れてくださる地域クラブの取組を進めています。  
そこで、地域で中学生にスポーツ・文化活動の指導をしていただける指導者を募集します。

少しでも興味のある方  
指導日や時間、活動場所、運営にかかる費用など、お気軽にお問い合わせください。

申込先 学校教育課 ☎(32)2395

こんな方を探しています！

- ・指導をやったことないけど興味がある！
- ・子どもたちのために何かしてあげたい！
- ・指導ってどんなことなの？
- ・興味があるけど一人で指導するの？
- ・私にできるかな？

指導経験がある方ももちろん大歓迎！

【広報紙2024.9月号】

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【指導の様子】



【指導の様子】



【中学生のスポーツ・文化活動地域展開検討会議の様子】



【地域クラブ活動(サッカー)に向けた生徒・保護者説明会の様子】

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



#### ステークホルダー

学校、社会教育関係組織、町教委

#### 経過

教育委員会と中学校長、部活動顧問との意見交換会、生涯スポーツ振興委員会、社会教育委員会、総合教育会議での情報共有

#### 実施にあたって生じた課題

誰もが部活動のイメージを強く持っており、地域展開の具体的なイメージを持ちにくい状態であった。

#### 実施内容等

近い将来、具体的な協議を開始する前提で、教育委員会と学校のイメージをすり合わせておく作業を進めた。生涯スポーツ振興委員会は、検討の場が立ち上がったときに関わりの多い団体の集まりになるため、国の動向や課題の共有を進めた。社会教育委員会や総合教育会議でも同様に状況を説明し、早く検討の場を立ち上げるようアドバイスもらった。

#### ステークホルダー

スポーツ団体、文化団体、PTA、学校、有識者、町長部局、町教委

#### 経過

体育協会、スポーツクラブ、文化連盟、小中学校PTAとの話し合いを進め委員選出、令和5年6月に「中学生のスポーツ・文化活動の地域展開検討会議」を設立

#### 実施にあたって生じた課題

生徒、保護者への周知不足。関係者への周知を進める必要がある。

#### 実施内容等

ロードマップ、大まかなイメージづくりを進め、周知がある程度できた状況でアンケートを実施した。R6.1に実施したアンケートでは、地域展開について知っているという回答が46%、聞いたことはあるが詳しくは知らないが40%であった。説明会では、複数回開催してほしいという要望があった。

#### ステークホルダー

中学生、保護者、地域クラブ、学校、地域の社会教育団体、町長部局、町教委

#### 経過

令和6年度から2種目の地域クラブ活動を開始、その他の地域クラブ設立に向けた協議

#### 実施にあたって生じた課題

生徒、保護者への周知不足。学校部活動との調整

#### 実施内容等

地域クラブ活動がスタートし、学校部活動と同様に選択できる環境となる。令和8年の総体までは移行期間となり、学校部活動と地域クラブが併存することになるため、学校部活動への配慮が不可欠となる。学校部活動に所属する生徒については、その活動を優先するルールとした。子どもたちが悲しい思いをすることがないように、ルールは決めつつ柔軟に対応する必要がある。



令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 兵庫県 稲美町

自治体名：兵庫県稲美町

担当課名：教育政策部（教育課、生涯学習課）

電話番号：079-492-1212

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	34.92 km <sup>2</sup>
人口	30,517 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	820 人
部活動数	26 部活 (運動21、文化5)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定中

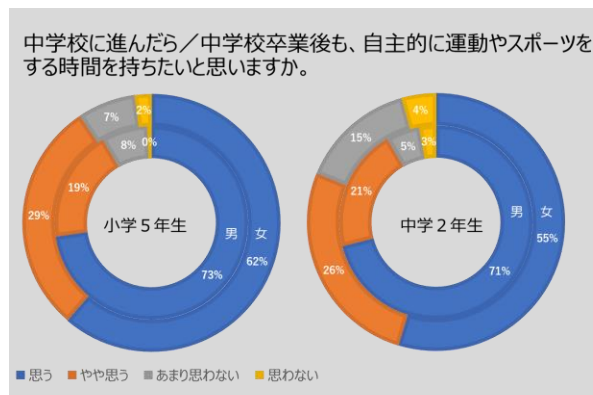
## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

町内には、公立中学校が2校あり、ともに学年3～4学級の編成である。令和6年度の部活動入部率は86%である。しかし、生徒数減少に伴い部員数が減少している種目や、部活動数の減少により、希望する種目がない生徒もいる。また、現在は、各部とも基本的に教員2名が顧問として指導にあっているが、休日は家庭の都合で従事できない教員もいるほか、専門的な指導が困難な種目もあり、教員の負担感は大きい。

令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣状況調査において、「運動やスポーツをすることは大切である、やや大切である」と回答した児童生徒は、小学5年生では男子95.2%、女子

97.4%、中学2年生では男子96.2%、女子91.5%であった。また、「中学校に進んだら自主的にスポーツをする時間を持ちたい」と回答した児童の割合も大きいことや、中学校の部活動入部率も高いことから、町内において、より充実したスポーツ環境の整備は欠かせない。

稲美町では、令和5年度より、部活動地域移行推進事業を開始し、中学校部活動地域連携・地域移行推進協議会にて今後の方向性を検討するとともに、部活動における地域指導者との連携や地域クラブ活動の試行を行っている。試行2年目は取組をさらに拡大し、学校と地域が協働・融合した稲美町としての持続可能なスポーツ環境の整備を行っていくこととした。



(出典:令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣調査)

令和6年度	稲美中		稲美北中		合同活動	大会参加
【種目】	指導者	生徒数	指導者	生徒数		
陸上	○●	26	□	26	試行	学校
野球	●	25	●	24	試行	学校
ソフトボール(女)		なし	○●	14	拠点校	学校/協賛会
サッカー	●	25	●	28	合同	地域クラブ
ソフトテニス(男)	○●	27	●	33	試行	学校
ソフトテニス(女)	○●	22	□	33		学校
バスケットボール(男)	□	25	●	39		学校
バスケットボール(女)	●	30	●	28		学校
バレーボール(男)	□	22	○	33		学校
バレーボール(女)	●	17	□	27		学校
卓球(女)	●	25	○●	31	試行	学校

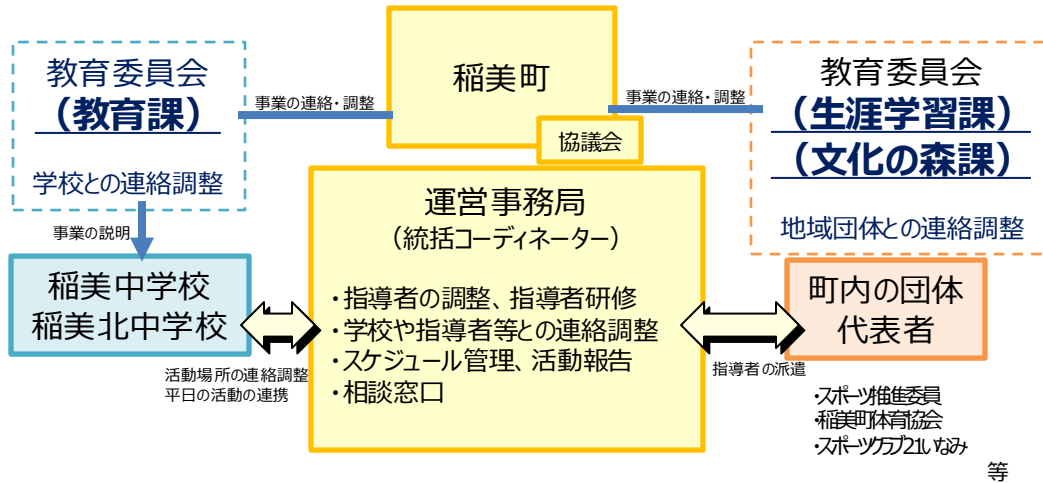
●地域クラブ活動(試行を含む)  
○地域連携(部活動指導員、部活動専門指導員)、□学校教員のみ  
その他競技中体連大会参加:水泳、体操、柔道

令和6年度稲美町立中学校における部活動及び地域連携・地域移行への取組状況  
(出典:稲美町部活動地域連携・地域移行推進協議会)

# 2.実証内容と成果

## 運営体制・役割

### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



### ●行政組織内での役割分担

#### ◎教育委員会（教育課）

- ・学校との連絡・調整、平日の活動との連携
- ・課題の確認とその対応
- ・生徒・保護者への説明、ニーズ調査への協力

#### ◎首長部局（生涯学習課）

- ・関係団体との調整、地域との連携に向けた調整と事務体制
- ・スポーツ推進計画の策定
- ・スポーツ振興のための指導や助言、地域指導者の派遣

## 年間の事業スケジュール

令和6年4月	第1回協議会の開催 保護者への事業の周知
5月	実証事業参加者への説明 地域クラブ活動の開始準備
7月	第2回協議会の開催
8月	教員ヒアリング 学校との調整会議の開催
9月	オフシーズン実証実施種目参加者への説明、申込受付  町広報による周知
10月	児童生徒保護者教員アンケートの実施
11月	地域クラブ活動状況の調査 第3回協議会の開催 次年度計画
12月	指導者研修会の実施
令和7年1月	教員ヒアリング 参加者アンケートの実施
2月	成果報告書の作成、次年度に向けた検討課題の整理
3月	令和7年度試行参加部活動の調整と活動準備

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	11クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（2部活）
	B：部活動の地域移行に向けて実証研究に取り組んだクラブ数（及び実証参加部活動数）		10クラブ（15部活）
全体の指導者数	28人	全体の運営スタッフ数	12人

#### ②各クラブに関すること（一部抜粋）

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費	大会参加方法
サッカーモデル事業 (INAMI FA)	町運営 [地域団体・人材活用]	サッカー	月2回程度	8:30 から 11:30	1年:16人 2年:18人 3年:19人	通年	学校施設	5人	2人	平日の部費と共用で実施	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
バスケットボールモデル事業	町運営 [地域団体・人材活用]	バスケットボール(男/女)	月2回程度	8:30 から 11:30	男:39人 女:36人	通年	学校施設	4人	3人	モデル事業につき0円 (部活動の道具使用)	中体連：部活動
合同モデル事業	町運営 [地域団体・人材活用]	A:ソフトテニス B:卓球 C:野球	年3回	8:30 から 11:30	A:40人 B:40人 C:30人	オフシーズンを中心に実施	学校施設 町内施設	A:5人 B:8人 C:4人	A:3人 B:2人 C:2人	モデル事業につき0円 (部活動の道具使用)	中体連：部活動

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

- アスリート人材との練習会の開催（サッカー）
- スポーツ障害の予防に向けたトレーニングの実施（野球）
- スポーツ体験フェスティバルの開催（稲美町体育協会、令和6年12月）
- 保護者向け栄養講座の開催（バスケットボール）

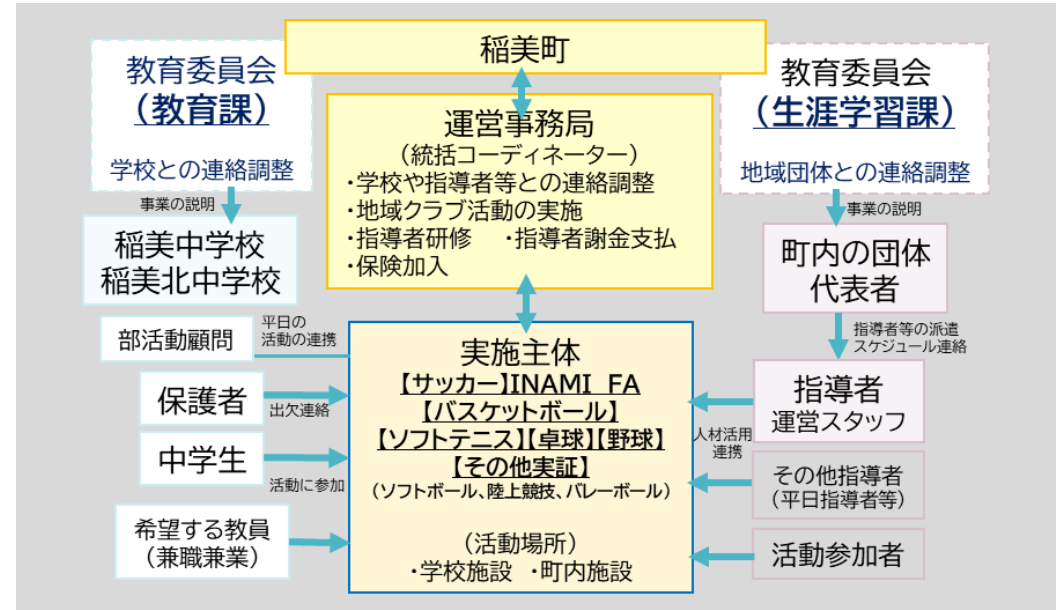
# 2.実証内容と成果

## 主な取組例

### ● 稲美町中学生地域クラブ活動（仮称） 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、バスケットボール 野球、ソフトテニス、卓球 等 (その他、各部で試行を広く実施)
運営団体名	稲美町教育委員会 (部活動地域展開運営事務局)
期間と日数	サッカー：通年（月2回程度） バスケットボール：通年（月2回程度） 野球、ソフトテニス男、卓球 ※オフシーズン実施（年3回程度） その他種目も随時試行を実施
指導者の主な属性	会社員、自営業、兼職兼業教員、学生
活動場所	稲美中学校、稲美北中学校 町内体育施設 (体育館、テニスコート、グラウンド等)
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	町内実証期間のため参加費なし 活動費、備品、道具等は、平日の部活動と共用
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

### ● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



### ● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等（サッカーの例）

指導者の役割分担	
A	統括 他チームとの連絡調整、中体連
B	3年担当 会計やバス代などの事務担当
C	2年担当 監督
D	1年担当 コーチ

指導経験の豊富な者が、チーム内の指導者育成の視点からアドバイスを行っている。

## 2.実証内容と成果

### ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備①

##### 取組事項

- ・稲美町における運営団体・実施主体の整備、持続可能な運営体制の整備を行う。
- ・先進地の情報を参考に、稲美町における組織体制の整備を進める。
- ・関係者との連絡調整や指導助言の体制について、地域クラブ活動の試行をもとに課題とその対応を検討する。
- ・実施主体の整備のため、部活動の顧問の業務や学校との連携に必要なことがらを整理する。

##### 取組の成果

先進地の事例収集や近隣との情報交換により、稲美町の現状に応じた部活動の地域展開に向けて、モデルの構築の検討を行った。先進地としては、同規模の人口の自治体の取組を参考とした。また、近隣地との情報交換により、面的広がりにもつながると考えられた。

教員や地域指導者、関係団体のヒアリングの中で、多様な意見や提案も寄せられた。教職員や関係者の主体的な参画は、町内における取組推進の大きな力となった。

モデル事業のいくつかでは、連絡体制にアプリケーションを使用し、指導者から生徒・保護者への一斉連絡を行うとともに、実施状況を運営事務局も把握できるようにした。さらに、顧問との共有により、平日の活動と連携した活動となるようにした。一方で、低廉な活動費用を考える点からは、利用料が課題である。



##### コーディネーターの具体的な動きの実績

令和6年度より、統括コーディネーター1名を教育委員会事務局に配置し、学校及び関係団体との連携強化に努めた。また、教員ヒアリングの実施により、部活動の地域展開について丁寧に説明をするほか、教員や関係団体からの意見聴取に努めた。

##### 今後の課題と対応方針

これまで部活動を運営してきた教員の業務と、試行で得られたことをもとに、実施主体と運営事務局の連絡体制を明確にしていく必要がある。役割分担や運営のモデルをつくり、安心安全な活動体制づくりが必要である。また、運営事務局と指導者の連絡方法の構築が必要である。スケジュール調整や生徒、保護者との連絡方法について、アプリケーションの活用などの検討を進めていく。

## 2.実証内容と成果

**ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備**

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備②

##### 取組事項

・運営事務局と実施主体との連絡体制の整備を進めた。また、試行の中から、実施主体における指導者の役割分担について、研修会を開催するとともに、チームマネジメントについて考える機会とした。

・学校との連絡調整については、統括コーディネーターを中心として行い、指導者との連絡を行った。地域クラブ活動の体制整備とあわせて、地域連携の取組（部活動指導員の配置、合同部活動等）も実施した。

##### 取組の成果

令和6年度は、稲美町による運営とし、稲美町教育委員会内に事務局をおき、行政各部署との連絡、学校との連絡、指導者との連絡などを行った。統括コーディネーターが中学校及び実施主体との連携調整にあたった。

検討段階である現在は、町による運営とし、実施状況について詳細に把握ができた一方で、運営事務局の業務が多岐に渡った。責任体制の明確化や相談窓口の設置、指導者の勤務管理など、整備が必要な項目や要項を作成するとともに、県スポーツ協会が開催する研修会に参加し、事務局運営に必要な事柄を整理した。

町協議会においては、「部活動の地域展開がめざすもの」として、「地域クラブ活動を通してどのような子どもに育てほしいか」という点について協議を行った。



稲美町部活動地域連携・地域移行推進協議会における協議（稲美町）

##### 一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

・休日から地域クラブ活動の実施に向けた準備を進めているが、今後を見据え、平日は部活動指導員や部活動専門指導員などの地域の指導者が、学校での部活動に協力する地域連携に取り組んだ。

・週末の練習や試合で出た課題を、それぞれの学校での平日の活動で改善するよう練習し、次の週末に繋げた。

・指導計画等を共有し、共通理解のもと練習を行った。アプリの活用により、情報共有を行った。

##### 今後の課題と対応方針

地域展開に関する報道が増える中で、町内における今後の取組などについての情報が少なく、関係者や生徒、保護者からの不安の声も多く寄せられた。広報活動や丁寧な説明により関係者の理解促進につなげていく。先行実施している活動からヒントを得て、種目に応じた地域クラブ活動の実施を検討する。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
**イ：指導者の質の保障・量の確保**  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

#### 取組事項

- ・稲美町体育協会、スポーツクラブ21いなみなど、町内競技団体等と連携し、指導者を確保する。
- ・指導者に対して、資質向上のための研修の受講を促進する。心身の健康管理や事故防止の徹底、ハラスメント根絶に関する取組を行う。また、事務局においても指導者研修を開催する。
- ・移行期にあるため、平日の部活動と連携した活動となるようにした。そのため、部活動指導員を3名配置したほか、町独自事業として部活動専門指導員を5名配置した。また、無償ボランティアによる協力も得た。

#### 登録者属性（人）

- ・会社員、団体職員（3）
  - ・自営業（1）
  - ・非常勤講師（2）
  - ・兼職兼業教員  
（小2・中16・高1）
  - ・学生等（3）
- その他、ボランティア等によるサポートあり

#### 資格の有無

実施種目に応じて登録を受け付けた。資格の有無などについての条件の検討のため、令和6年度は学校または事務局からの依頼とした。

#### 種目（人）

- ・サッカー（5）
- ・バスケットボール（4）
- ・ソフトテニス（5）
- ・卓球（6）
- ・野球（4）
- ・ソフトボール（2）
- ・バレーボール（1）
- ・陸上競技（1）

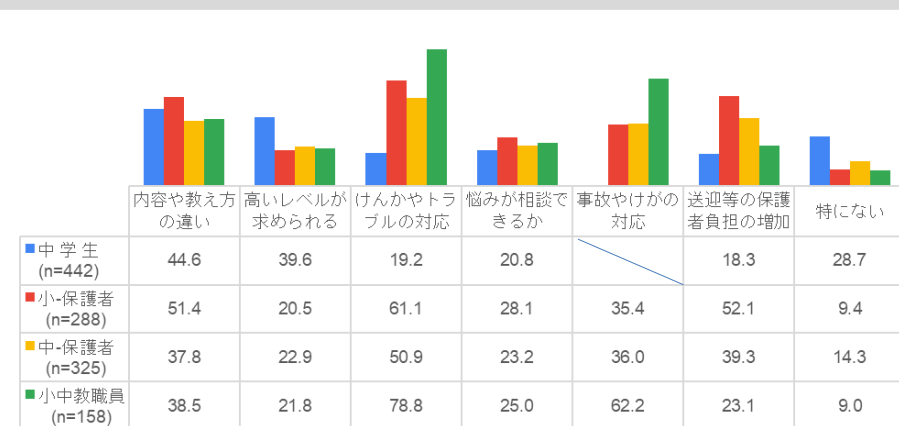
#### 取組の成果

モデル構築のため、複数の指導者による活動となるようにした。中でも、指導者の意思統一や、シフト制による活動への参加を課題とした。

その結果、サッカーにおいては指導者の役割分担が進み、シフト表の作成や指導項目の共有方法などが他種目もモデルとなった。また、ソフトテニスにおいても、複数指導者が交代で活動に関わることとし、シフト制による指導とするほか、指導者間の連携を密にした。

令和6年度アンケート結果から、「指導内容や教え方の違いにより生徒が戸惑わないか」「けんかやトラブルの対応」「事故やけがへの対応」についての不安が多く寄せられており、事務局にて指導者研修会を開催した。

(問) 地域指導者による指導にどのような不安がありますか。(複数回答)



出典：令和6年10月稲美町中学校生徒・保護者・教職員アンケート（稲美町教育委員会）

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

##### 指導者研修の内容

###### 第1回「チームマネジメントについて」

- ・2 中学校の合同クラブ活動におけるチームマネジメントについて
- ・地域と連携した吹奏楽部の活動について
- ・チームマネジメントについて 一部活動、学級活動、授業から考える—指導者と選手が同じ方向、同じ目的で取り組むことが大切。育てほしい生徒の姿を思い描き、伝え、その場を作ることを繰り返す中で子どもたちができるようになる。

###### 第2回「思春期の身体とトレーニングについて」

理学療法士（実証事業/スポーツ21いなみバスケットボール指導者）

- ・姿勢や可動域の重要性やトレーニングの考え方について、実技
- ・試合後のクールダウンとリカバリーが翌日のプレーに与える影響

##### 指導者研修の参加実績

- ・第1回開催日：12月23日
- ・参加人数：28人
- ・第2回開催日：12月24日
- ・参加人数：34人（中学生含む）



##### 受講者の声

**【第1回】** 中学校の部活動についての先生方の思いや地域移行に向けての現状を改めて知り、参考になった。また、生徒と教員との関係や生徒理解など、中学校では部活動が多面で影響しているという事もよくわかった。地域移行となると教師の資質向上がますます必要だと思った。

それぞれの先生の指導観を聞くことは、自分の指導を見直す良い機会になると思う。また、一般の方には、地域展開後の活動の在り方の指針になると思う。スポーツ以外の指導についても参考になると思う。

**【第2回】** 理学療法士から見たトレーニング説明や体験を通してわかりやすく学ぶことができた。各運動部でも受けた方がいい内容であると思った。

子どもの体の成長を促し、ケガを防止するための研修は、学ぶ機会が少ないので年1回指導者全員が受けるように計画していくべきだと思う。

##### 今後の課題と対応方針

指導者からは、思春期の中学生に関わることへの不安が寄せられている。また、生徒・保護者からは、「トラブルが起こった時に、学校の先生と同じように関わってもらえるか」との不安があった。教員も同様である。今後は、生徒・保護者・教員・指導者が安心して地域クラブ活動を実施できる体制指導者研修を充実させていく。また、指導者に必要な研修の体系化についても準備を進めていく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

**ウ：関係団体・分野との連携強化**

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

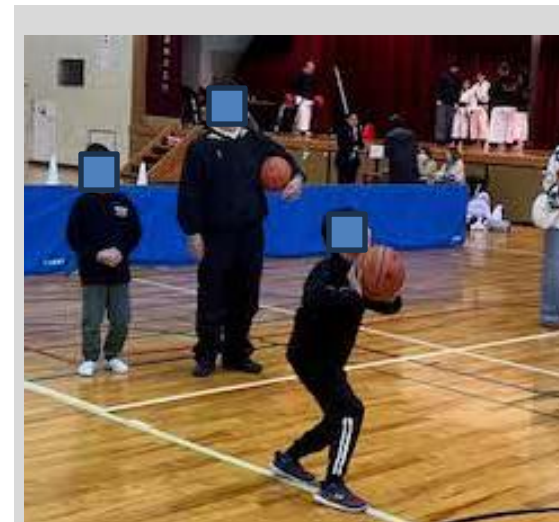
- ・スポーツ推進委員や町内競技団体との連携強化についての方法を検討する。
- ・スポーツ関係団体（稲美町体育協会、スポーツ推進委員、スポーツクラブ21いなみなど）への説明、協力依頼を行う。
- ・関係団体と連携を進めるために、試行での課題をもとに、地域クラブ活動のガイドライン等の整備を行う。

##### 取組の成果

稲美町体育協会では、代表者会議の中で、地域展開に向けた取組についても取り上げ、協議を行っている。また、令和6年度取組として、協会主催の「スポーツ体験フェスティバル」が開催された。

当日は、バスケットボール、卓球、バドミントン、剣道、ショートテニス、少林寺拳法など、10種目の体験コーナーが開催され、約90人が参加した。

町協議会における「小さいころからのスポーツの経験が、生涯にわたりスポーツに親しむ基礎になる」との意見や、令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣状況調査において、「スポーツが楽しい」と回答する小中学生が国や県の平均に比べて多いことから、スポーツ関係団体の協力により、地域におけるスポーツ活動環境の充実に繋がれると考えられる。



出典：スポーツ体験フェスティバル（NPO法人稲美町体育協会）

##### 町体育協会主催行事との連携

地域クラブ活動の試行種目だけでなく、町内中学校の部活動種目が、地域での活動に積極的に参加している。また、町体育協会主催の町民大会やイベントにも積極的に参加している。

##### 町体育協会との連携

卓球では、地域クラブ活動の試行として実施した中学生の合同活動において、卓球協会会長から、体験フェスティバルへの参加を呼びかけがあった。中学校卓球部と卓球協会は、町民大会でも交流があり、多世代に渡る卓球大会が開催されている。また、ソフトテニスにおいても、ソフトテニス協会の協力と応援を得て地域クラブ活動の試行を実施した。

##### 今後の課題と対応方針

指導者については、複数の指導者が必要であると考えており、各部において連携を進める。町内スポーツ団体が一体となり協力ができる体制づくりを含め、運営事務局・関係団体・学校の連携強化により、地域クラブ活動の実施主体の体制についても検討を進めていく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
**エ：面的・広域的な取組**

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

##### 取組事項

- ・地域クラブ活動や地域連携の試行部活動の取組をもとに、町内2中学校の合同での活動についても検討を進める。
- ・サッカー部では、数年前から休日は合同部活動として活動しており、令和6年度から地域クラブ登録により大会に出場した。
- ・種目ごとに大会参加のあり方（中体連主催大会、協会主催大会）について検討する。

##### 各自治体の役割

持続的な運営に向けて、適正な活動規模や指導者の確保の点から、活動の集約化を予定している。子どもたちが「チームいなみ」として活動していくためには、気持ちをひとつにすることが欠かせない。地域クラブ活動への期待として、他校の生徒とのつながりも拳がっていることから、合同での活動を段階的に取り入れ、「チームいなみ」としての所属意識を高めていく。

##### 移動手段

- 【活動場所】
- ・稲美中学校、稲美北中学校
  - ・練習試合または大会の会場
- 【活動場所までの移動方法】
- ・練習予定表であらかじめ指示
  - ・町内の移動は自転車を基本
  - ・大会の際は保護者送迎または借上バスを使用  
(バス代は個人負担)

##### 事務局運営の方法

活動場所の指示は、チーム（指導者）から連絡を行った。当町では、申し出により全員が自転車通学であるため、町内の移動は自転車を基本とした。その際、チームにおいても交通安全の指導を行った。

大会参加や町外での練習試合については、町外活動実施願を提出し、事務局にて許可をした。また、緊急時に備え、事務局とチーム代表が連絡を取れるようにした。

##### 取組の成果

サッカー部は部員数減少により、平成30年度から部分的に合同部活動を行ってきた。その後も継続的に合同で活動を行い、部員数も徐々に増加して、安定した活動ができるようになった。その結果、練習試合の回数も増えた。また、借上バスの一人当たりの負担額も少なくなった。現在、5名の指導者が、役割分担により運営と指導を行っている。また、休日は平均2名で指導しており、指導者の負担軽減につながっている。

入部数	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
稲美中(人)	8	14	6	11	0	6	9	7	9
稲美北中(人)	14	7	10	11	7	7	11	12	7

出典：サッカー部入部数の変化（稲美町教育委員会）

##### 今後の課題と対応方針

持続的な運営に向けて、適正な活動規模や指導者の確保の点から、現在ある両中学校の部活動の種目をひとつの活動としていくことを基本に進めている。今後は、学校行事の調整を行うとともに、合同での活動を増やし、持続可能な部活動となるような「稲美町モデル」を構築していく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実①

##### 取組事項

- 休日の地域クラブ活動の実施に向けたモデル構築（合同部活動から、地域クラブ活動の本格実施に向けた準備）
- 指導者の役割分担と、生徒の個々のレベルに応じた練習、活動、指導の展開
- 安全体制の整備
- 平日の活動との連携
- 指導者の確保と育成
- 収支構造の確認
- 多様な練習機会の創出
  - ・練習試合の試合形式の工夫
  - ・小学生も参加できる活動の実施
  - ・高校生や卒業生、保護者とともに活動する機会
  - ・J1リーグで活躍する選手による練習会の開催

##### 活動の詳細（サッカー）

参加人数	53 人	指導者数	5 人
属性	稲美中学校生徒、稲美北中学校生徒、会社員、兼職兼業教員		
具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個々のレベルに応じた練習、活動、指導の実施</li> <li>● 指導者の役割分担による外部との連絡調整や運営、指導者の育成</li> <li>● 指導者間の情報共有、平日の活動との連携</li> <li>● 多様な練習機会の創出（小学生、卒業生や保護者の参加、J1選手による練習会）</li> </ul>		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サッカーを通じて同級生の仲間が増えているからうれしい。</li> <li>● 同じ学校の部員同士でトラブルがあっても、もう1つの中学校の部員がいるから何とかなる。</li> </ul>		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 合同で活動できるという点で、クラブチームではなく部活動を選択する生徒も出てきた。いろいろな考え方があるが、サッカーという競技性もふまえて、生徒のためになる活動だと考え指導にあたっている。</li> <li>● 学校を超えての繋がりができるので、生徒にとっても教師にとっても良い刺激になると考えている。</li> </ul>		
J1リーグ選手による練習会参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボールをもらう前だけではなくいろいろな場面でまわりを見ていたので、僕も頑張りたい（生徒）。</li> <li>● 卒業生で、J1リーグで活躍する選手であっても謙虚な姿勢を貫く姿勢に感銘を受けた。今年、大怪我を負ったことで新たな道が拓けたと柔軟な姿勢やストイックに意識を高く持ち続けることは、生徒だけでなく自身の考え方に繋げていきたいものだった（指導者）。</li> </ul>		
運営経費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者等謝金（運営事務局）</li> <li>・中体連大会参加指導者旅費（運営事務局）及び選手派遣費補助（教育委員会）</li> <li>・備品消耗品費、チーム登録・協会大会参加費は、平日の活動の部費及び中学校生徒活動振興会費用、学校備品の使用による。</li> </ul>		



出典：卒業生、保護者との練習会の開催（INAMI FA）

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

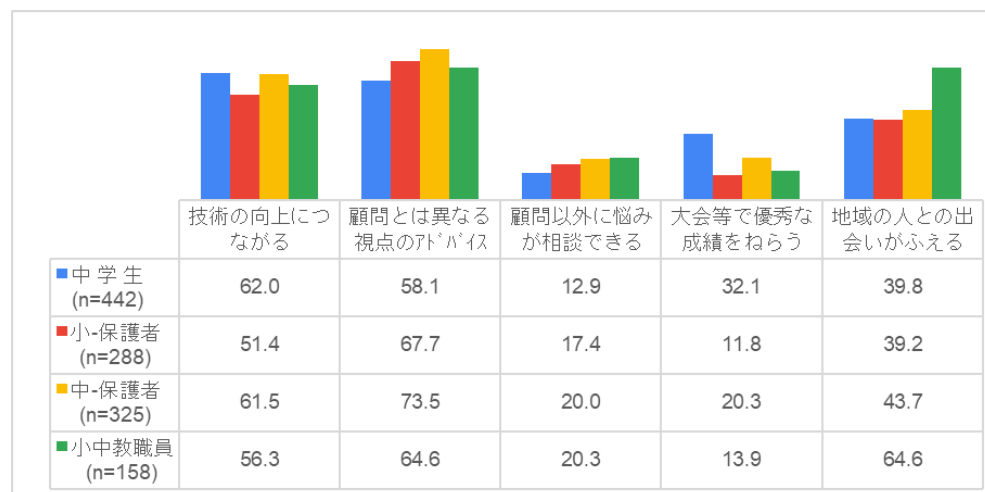
#### ●取組項目名 オ：内容の充実②

##### 取組の成果

「地域指導者による指導への期待」についてアンケートを実施した結果、生徒・保護者ともに、「技術の向上」や「先生とは異なる視点でアドバイスをもらえること」が大きな期待であることがわかった。また、生徒は「大会等で優秀な成績をねらうことができる」と回答した割合が保護者や教員より大きく、保護者や教職員とは異なる傾向であった。これは、「部活動やクラブ活動で大切にしていること」に対する回答と同じ傾向であった。教職員は、「地域の人との出会い」に対する期待も大きいことが分かった。また、負担軽減や休日が取れることへの期待意見も寄せられた。

これらアンケートの結果をもとに、指導について、地域指導者と教員の役割分担や目指す方向性を確認して指導にあたった。また、地域の人との出会いに対する期待も大きいことから、今後、地域の多様な人材の参画により、より充実した活動へとつなげていく。

(問) 地域指導者による指導にどのような期待がありますか。(複数回答)



出典：令和6年10月稲美町中学校生徒・保護者・教職員アンケート（稲美町教育委員会）

##### 今後の課題と対応方針

現在は、運営についても試行中であり、教員と地域指導者ともに指導にあたる時間も多し。一緒に指導を行い、日頃の様子を掴んでもらい、徐々に地域指導者が中心となる指導を増やしていく予定である。これらにより、技術的な連携は可能であるが、生徒指導面の連携や個人の情報の取扱いについては配慮を要する。

技術面の指導だけでなく、サポート的側面から協力したいとの意見も寄せられた。種目をこえた連携や研修プログラムの工夫により、地域指導者各々の強みを生かした地域クラブ活動の実施ができると考えられる。指導者の情報交換会を定期的を開催し、より充実した取組にしていく。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

部活動の地域展開に向けて、令和5年度の取組をさらに広げ、運動部各部において地域連携や地域クラブ活動を試行した。地域からの指導者の参画、指導者や教職員、生徒等からの様々なアイデアにより、競技に応じた工夫を凝らした活動ができている。また、実施したアンケート結果からは、関係者の地域展開への期待の大きさもうかがえた。

一方で、移行期子どもたちにとって、活動の試行による急激な変化を避けることもまた大切である。段階的な地域展開に向けて、地域連携を実施することとし、部活動指導員や部活動専門指導員として協力を得た。部活動指導員の配置により、教員が指導に携わる時間が半減した。「チームマネジメント」をテーマとした研修では、地域展開後の生徒との関わり方について、教員から問題提起があり、参加者が考える機会となった。

事務局の運営体制の整備については、検討課題が多岐に渡り、さらなる情報収集と課題の整理が必要である。安全確保の体制づくりをはじめ、参加者が安心して活動できる環境づくりが必要である。

#### ●成果の評価

- サッカーでは、地域クラブとしての大会参加や、平日の活動との連携に取り組んだ。また、多様な練習機会の創出にも取り組み、多世代に渡る活動を実施した。
- バスケットボールでは、理学療法士やスポーツトレーナーと連携し、安全確保の体制づくりに力を入れ、種目を越えた研修プログラムの整備に繋がった。
- ソフトテニスでは、生徒が主体的に参加する新しい地域クラブ活動を開始した。特に、アジリティトレーニングなど、からだづくりの基礎にポイントを置いた練習を実施した。
- 卓球においては、個々の目標を明確にした練習会を実施した。
- 野球においては、冬季のトレーニングを中心に、合同での活動を行った。
- 事務局の運営体制の整備や収支構造の検討、活動場所の確保策など、本格実施に向けた検討課題の整理が必要である。

#### ●今後に向けて

新しい地域クラブ活動への期待とともに、これまで活動してきた部活動の教育的意義への思いも大きい。移行期の生徒たちにとっても充実した活動であることが大切である。一方、新しいクラブ活動も、目指す姿を明らかにし、よりよい稲美町モデルの構築が必須である。新しい価値の創造となるよう、研修会を工夫し、ニーズを把握した活動の在り方について、常に検討を続ける必要がある。また、平日の活動の体制整備も必要である。

「部活動の地域展開から始まるまちづくり」「生涯に渡ってスポーツや文化芸術活動に親しむまちづくり」となるよう、引き続き関係者や地域の協力のもと、取組を進めていく。

## アンケート結果・広報資料

**稲美町立中学校の部活動のしくみが変わります**  
**部活動の地域連携・地域移行（地域展開）について**

令和6年10月  
小学生用



全国的に、少子化が進む中で、こどもたちのスポーツ・文化活動の充実が必要とされ、全国的に部活動改革が進んでいます。

稲美町教育委員会では、令和5年度から『部活動改革プロジェクト』を進めています。これは、中学生が今後もよい環境で部活動ができるように、新しい部活動のあり方を考えるものです。

スポーツ・文化活動に関係している方々や学校の先生方と課題を整理し、解決を図る会議（稲美町中学校部活動地域連携・地域移行推進協議会）を開いています。また、今ある中学校の部活動について、地域の方と学校の先生と一緒に部活動の指導することや、稲美中学校と稲美北中学校の合同練習をしています。

今後、休日の部活動について、「学校単位の部活動」から、「稲美町単位の部活動」へとしくみが変わっていくので、新しい部活動の在り方を試行していきます。「稲美町のこどもたち」を中心とした、より良い環境を整えられるよう、これからも検討を進めます。みなさんのご協力をお願いします。

**Q：中学校にはどんな部活があるの？**

A:稲美町の中学校には26の部活動があります。  
陸上競技部、野球部、ソフトボール部、サッカー部、ソフトテニス部、バレーボール部、バスケットボール部、女子卓球部、吹奏楽部、文化芸術部  
【稲中】、美術部【北中】、科学部【北中】  
今ある部活動の今後のあり方の検討を始めています。

**Q：どのような人が指導するの？**

A:各競技団体から派遣された指導者、元教員、地域クラブ活動の指導を希望する現職の教員などが「地域の指導者」として関わる予定です。また、各競技の指導者資格を持つ方や競技経験がある人など、地域の方々もスタッフとして関わってもらえる体制づくりを目指しています。

**Q：大会やコンクールはどうなるの？**

A:まずは、休日の学校部活動を学校単位から地域での活動とすることを目指しています。しかし、現在、学校にある部活動については、大会やコンクールはこれまで通り、学校の部活動として出場することを基本的に考えています。各競技の大会等に影響がない休日の活動を中心に実施していきます。

**稲美町での試行の様子（稲美町モデルの構築に取り組んでいます）**

- ・地域人材による指導（陸上競技部、バスケットボール部、吹奏楽部）
- ・合同部活動の取組（サッカー部、吹奏楽部）
- ・地域団体と連携した活動（吹奏楽部）

令和6年度は、試行種目を拡大しています



陸上競技部



バスケットボール部



サッカー部

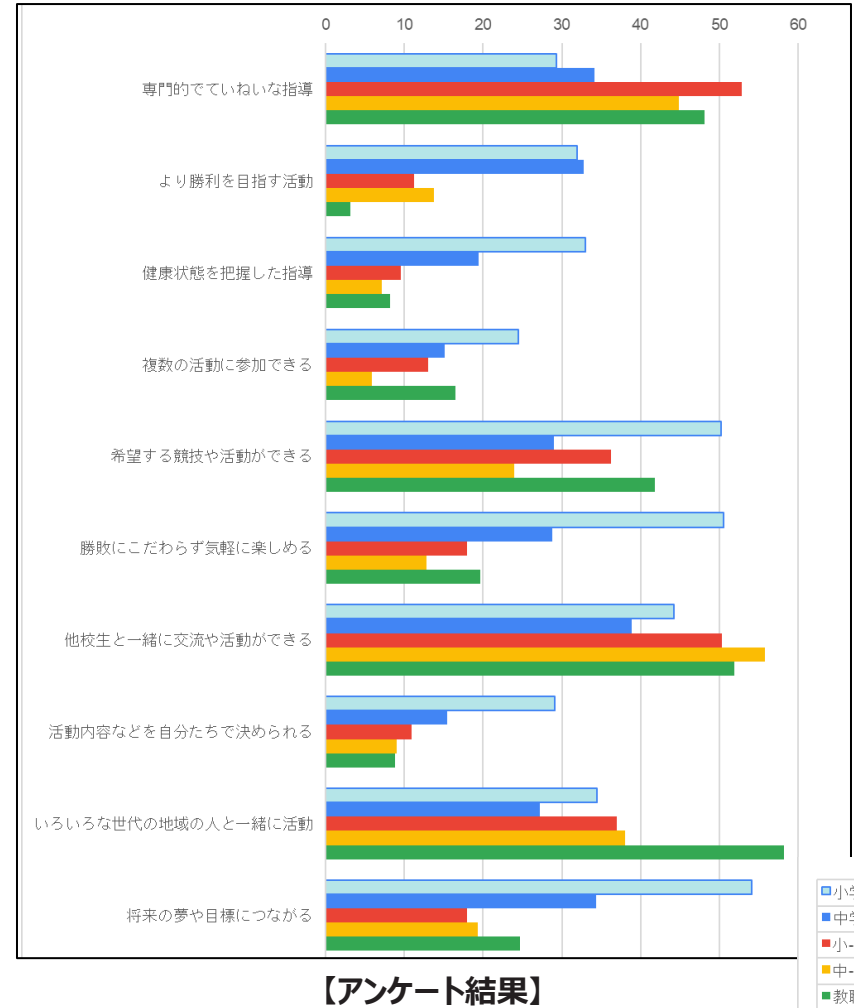


吹奏楽部

### 【部活動の地域展開についての説明資料】

出典：稲美町部活動地域連携・地域移行推進協議会、稲美町教育委員会

中学校の部活動が地域の方と連携したり稲美町としての活動になることについて、期待することはどのようなことですか。



### 【アンケート結果】

出典：令和6年10月稲美町中学校生徒・保護者・教職員アンケート（稲美町教育委員会）

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



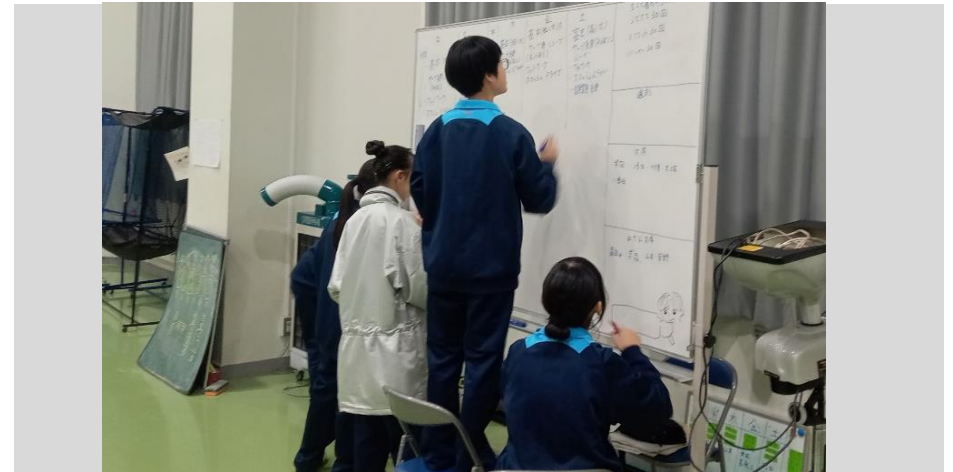
【部活動から移行したチームとして中体連大会に参加（サッカー）】



【冬季トレーニングの合同実施（野球）】



【地域指導者によるトレーニングメニューの実施（バスケットボール）】



【生徒による練習メニューの計画（卓球）】

## 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

- ・関係者との意見交換会の実施
- ・教員への説明

令和5年

- ・協議会設置
- ・学校現場との調整
- ・指導者の選定

令和6年

- ・試行種目、受け皿団体や指導者の選定

令和7年

- ・地域クラブ活動の拡大
- ・事務局の整備

### 教職員への周知、理解と協力

- ステークホルダー
  - ・教職員、協議会委員、町体育協会、町スポーツ推進員、町文化連盟、
- 経過
  - ・国の提言やガイドラインに基づき、各校の代表者と地域連携に関する準備検討委の開始に合わせて教職員への説明を行い、協議会を設置した。
- 実施にあたって生じた課題
  - ・教職員それぞれが持つ、部活動への期待と不安、現場の現状など、さまざまな意見があった。
- 実施内容、工夫した点等
  - ・事務局統括コーディネーターが各校の教職員からヒアリングを継続して行い、事業の理解と周知に努めた。

### 合同部活動、拠点校部活動の模索

- ステークホルダー
  - ・生徒、保護者、教職員、教育委員会
- 経過
  - ・すでに合同活動を開始していたサッカー部に続き、吹奏楽部でも合同活動を開始した。地元吹奏楽団との連携は数年前から続いており、専門のスタッフを配置することにより、より充実した活動になった。
- 実施にあたって生じた課題
  - ・各競技種目により大会の出場規定の違いがあることや、合同チーム・拠点校の規定について、調整が必要であった。
- 実施内容、工夫した点等
  - ・生徒(部員)数の減少で、維持が難しくなっている部活動への、合同活動のあり方を問い直した。

### 運営団体・実施主体の整備

- ステークホルダー
  - ・地域指導者、地域団体、推進協議会
- 経過
  - ・試行中の活動から、モデル構築をめざすとともに、地域指導者の連携だけではなく、実施主体(受け皿)としての組織体制を構築をめざした。
- 実施にあたって生じた課題
  - ・実施にあたり、種目による検討課題のリストアップと安全面の体制整備の必要性があった。運動部における地域クラブ活動、地域連携(合同、拠点校)の体制整備に加えて、文化部の地域連携活動、事務局体制の整備と、多岐にわたる展開で、書類の整備や事務局と指導者との連携に負担がかかった。
- 今後の課題等
  - ・組織体制の確立とともに、地域指導者を対象にした研修、安全体制の確保、費用負担の在り方が課題である。

# 3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ（R6.11現在）

